

教授法

第1章 国語教育と日本語教育

2

→ 小学校から始まる学校教育



→ 外国人に、
としての日本語を教える

<第二言語の定義>

①



3

2

3

	国語教育	日本語教育
対象者		
能力	「聞く」「話す」はできる	の能力が不十分 ()
何をやるか	スタート	スタート
違い	⇒	

4

<第二言語の定義>

②

としての日本語 =
(Japanese as a **S**econd **L**anguage)

としての日本語 =
(Japanese as a **F**oreign **L**anguage)

5

5

第2章 日本語学習者

1) 留学生

<日本語学校の学生の主な学習目的>

- ・日本の専門学校、大学、大学院への進学

- ・日本での就職

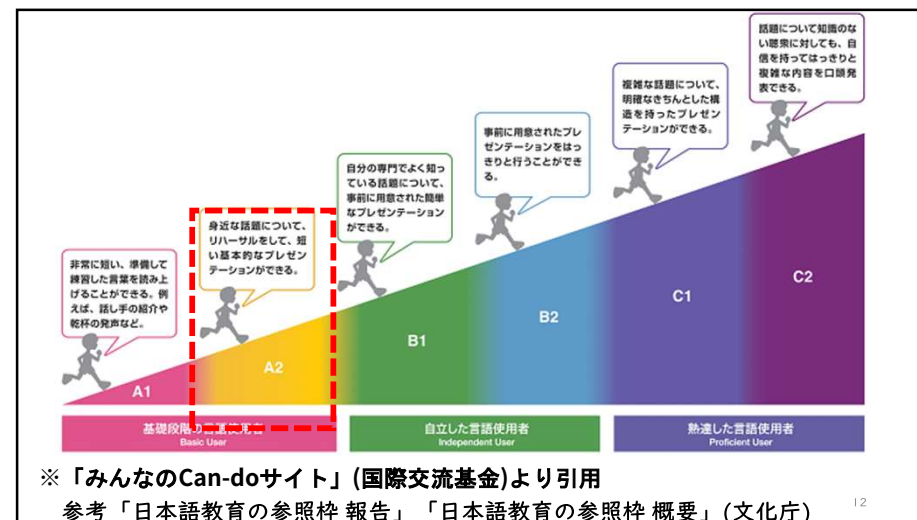


※日本語学校に在籍できる期間は、



日本語の試験


- 毎年 年に実施・レベル N1~N5
- 毎年 年に実施・試験科目: 日本語・理科・数学・総合科目
- 年6回実施・CBT方式・「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」の日本語力を持っているかどうかを判定



・ **JFT-Basic**は、「**日本語能力試験**」に基づいて
日本語の能力を測る試験

※読み方:セファール(ヨーロッパ言語共通参照枠)
“Common European Framework of Reference for Languages”

⇒ヨーロッパ全体で外国語学習者の習得状況を示す際に
用いられるガイドライン




14

・ **CEFR**: の考え方に基づく

⇒多様な背景を持つ言語の使用者及び学習者を生活、就労、
教育等の場面において、
として捉える考え方のこと

・行動中心アプローチにおける言語教育の**目標**
⇒言語の使用者及び学習者が




15

2) 外国人労働者

技能実習生

⇒技能実習生が日本の企業と雇用関係を結び、

(滞在可)



26

技能実習生 就労状況が大きな問題となっている

- 2017年11月: 「**技能実習法**」施行
技能実習生の保護を図るため、**新制度**が行われた
 - ・人権侵害行為等について、禁止事項や罰則を規定
 - ・実習先の変更を支援 など
- 2024年3月: 技能実習制度に代わる **新制度**
に関する法案が閣議決定。6月の参議院本会議で可決・成立。
2027年4月に施行予定。

新制度では… (これまで原則不可)

27

特定技能1号・2号

2019年、ために創設

	特定技能1号	特定技能2号
対象者	技能を持つ外国人	技能を持つ外国人
在留期間	最長5年	更新の上限なし
取得条件		・2号の技能試験に合格 ・実務経験 ※分野によって、N3以上の日本語能力が必要
業種	2027年頃	2023年8月
家族帯同	×	○

33

特定技能1号

12分野 ⇒ 16分野へ ⇒ 19分野へ
 (2024年9月30日より) (2027年頃、制度運用開始予定)

※国際人材協力機構 (JITCO) HP参照

①介護 ②ビルクリーニング ③工業製品製造 ④建設
 ⑤造船・船用工業 ⑥自動車整備 ⑦航空 ⑧宿泊
 ⑨農業 ⑩漁業 ⑪飲料品製造業 ⑫外食業

追加4分野:


追加3分野: 物流倉庫の管理、廃棄物処理、リネン製品の供給

34

特定技能2号 2分野⇒11分野へ (2023年8月31日より)

① ②

③製造業 ④ビルクリーニング ⑤自動車整備 ⑥航空
 ⑦農業 ⑧漁業 ⑨飲食料品製造業 ⑩外食業 ⑪宿泊



37

高度人材ポイント制

⇒2012年 ために導入された制度




・ などの項目ごとにポイントが設けられている

・ は、在留資格

が得られ、 を受けることができる

40

高度外国人材

- ⇒ 日本での**研究、研究の指導または教育**をする活動 
- ⇒ 日本で行う**自然科学、人文科学の分野**に関する知識や技術を要する業務に従事する活動 
- ⇒ 日本で**事業の経営や管理**に従事する活動 

41



41

	高度専門職1号	高度専門職2号
取得条件	「高度人材ポイント制」で取得	「高度専門職1号」を取得し活動
在留期間		
優遇措置	<ul style="list-style-type: none"> 配偶者の就労 親・家事使用人の帯同 の優先処理 在留歴に係るの緩和 	
人数	2023年末:22,478人	同:1,480人

43

43

3) 南米日系人とその家族

主に  へ移住した日本人とその子孫 

- ・ **1989年** 在留資格 **が新設**
- 対象者 :
- 滞在期間: **最長5年** (ただし更新すれば無期限滞在可)
- 家族帯同: **可**
- ※ **就労は自由**
- ⇒ これを機に、来日する日系人が急増

47

47

- ・ **2018年** の受け入れ制度ができた
- 在留資格:
- 対象者 :
- 滞在期間: **最長5年**
- 入国時に必要な日本語能力:
- 家族帯同: **不可**
- ※ **就労は自由**

48

48

・2023年12月「日系4世」の在留資格の要件が緩和

対象者：18歳以上

入国時に必要な日本語能力：18歳以上30歳以下⇒
31歳以上35歳以下⇒

在留資格：① で5年滞在 ②
⇒「定住者」に変更可

49

49

3) 南米日系人とその家族

：南米日系人が多く住む都市により毎年開催
地域の問題解決に取り組んでいる
(就労、教育、医療、社会保障などの問題)



50

50

4) 難民

： から政治的な迫害を
逃れるために、国外脱出を図った人々
海路で逃れた人々＝

1981年 日本が 加盟

2006年 条約難民を対象に難民事業本部（ ）が開設
日本語教育・職業相談など定住支援事業を行っている

53

53

条約難民とは、「人種、宗教、国籍、特定の社会的集団の構成員、
政治的意見」を理由に

●まず5年間の「定住者」の在留資格⇒永住許可の取得も可能

●認定のハードルは極めて高い

1982～2020年までの39年間に難民申請した8万5479人(取り下げを
含む)のうち、 しか認定されていない

54

54

●2023年6月

●同年12月、
新制度が施行された

⇒従来：一時的な在留許可
新制度：
として保護
の在留資格を付与

	改正案	専門家や 難民支援者の指摘
強制送還	難民申請回数が3回目以降の人は強制送還可能に	本来難民として保護すべき人を危険にさらす懸念
難民認定基準	大きな変更なし	他の先進国と比べて厳しすぎる
入管施設収容のあり方	3カ月ごとに収容を続けるべきか検討する	・収容期間に上限がない ・収容、解放の決定に司法の審査がない
入管施設外の生活	従来の「仮放免」に加え民間の監督者の元で暮らす「監理措置」の導入	監理人の引き受け手が出せない可能性
日本で生まれ育った子どもたちの扱い	大きな変更なし	在留資格がないため保険証がない、就職できないなどの状態が続く

(出典 static.tokyo-np.co.jp)

55

「難民に対する日本語教育」 (文化庁)

- ①定住支援施設における日本語教育
- ②日本語学習教材の提供
- ③日本語教育相談員による指導・助言

58

5) 看護師・介護福祉士候補者

に基づいて受け入れ

⇒ を図ることを目的とした協定

日本 ↔

在留資格は

60

インドネシア・フィリピン： 日本語研修を受け、に達した者のみ来日可

ベトナム： 日本語研修を受けて、のみ来日可

※看護師候補者は、介護福祉士候補者は の間に、
国家資格が取得できなければ帰国

61

6) 短期滞在者

観光客、ワーキングホリデービザで入国した人

<主な学習目的>

旅行会話など簡単な日常会話がしたい

⇒ 使う

「空港で」「郵便局で」「スーパーで」



62

62

7) 海外帰国子女

<主な学習目的>

受験をして日本の学校に入りたい

・日常会話の日本語が問題なくても、



63

63

<帰国子女に関するサイト>

：帰国・外国人児童生徒に関する

(海外の日本人学校と国内の学校が)

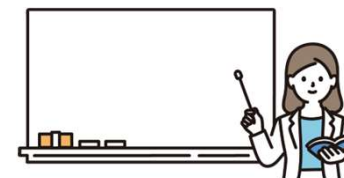
：帰国・外国人児童生徒のための、

(多言語教材など)

[CLARINET](#) [かすたねっと](#)

64

第3章 教授法の歴史



67

67


1) 文法訳読法／文法翻訳法／
GTM, Grammar-Translation Method

16世紀頃～19世紀中頃まで、約300年間主流

【背景】 ラテン語が学ばれるようになった

【ポイント】

- ・
- ・ は身につくが、 は身につかない



68


2) 直接法 ▼ナチュラルメソッド
 ▼シリーズメソッド／サイコロジカルメソッド
 ▼ベルリッツメソッド

19世紀

【背景】 産業革命により交通機関が発達
 外国語で会話する機会が増えた

【ポイント】

- ・ を重視し、 を身につける
- ・ を観察して生まれた教授法




69

2) 直接法 ▼ナチュラルメソッド
 ▼シリーズメソッド／サイコロジカルメソッド (byグアン)

【ポイント】

- ・ 教師が 動作と言葉で表現し、それを学習者が再現 例) 「ドアを開ける」
- ・ 幼児の母語習得の過程と心理的発達に注目



70

2) 直接法 ▼ナチュラルメソッド
 ▼シリーズメソッド／サイコロジカルメソッド (byグアン)

1895年 日清戦争に勝利し、台湾で皇民化教育を始める
 、台湾の芝山巖（しざんがん）で日本語教育開始
 芝山巖事件

1896年 、台湾でシリーズメソッドを実践
 「戸のほうに歩む」「戸に近寄る」…

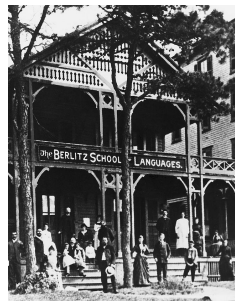
71

2) 直接法 ▼ナチュラルメソッド
 ▼ベルリッツメソッド (byベルリッツ)

1878年「ベルリッツ・スクール」設立

【ポイント】

- ・「聞く」「話す」を重視
- ・
- ・
- ・ (学習者の母語使用禁止) ⇒
- ・ 語彙は絵やジェスチャーで、文法は例文を挙げて理解を促す



73

73

「間接法」⇒学習者の _____ を使った教え方



76

76

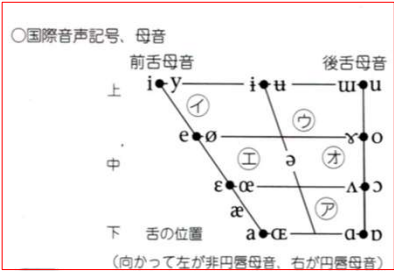
2) 直接法
 ▼フォネティック・メソッド (音声学的教授法)

19世紀半ば

【背景】
 _____ の研究が盛んになった

【ポイント】

- ・
- ・ 学習者の母語使用禁止



77

77

2) 直接法
 ▼オーラル・メソッド (by言語学者パーマー)

20世紀初め

【ポイント】

- ・ フォネティックメソッドの影響 ⇒
- ・
- ・ 授業の流れ

78

78

2) 直接法
 ▼ **オーラル・メソッド** (by言語学者 パーマー)


<授業の流れ (PPP) >

(Presentation) : 絵、 使用

↓


(Practice) : 反復練習、置き換え(代入)練習、転換練習

↓

(Production) : 会話練習 

79

2) 直接法
 ▼ **オーラル・メソッド** (by言語学者 パーマー)



ソシュール (1857-1913)
 スイス人「近代言語学の父」

(ラング)

(パロール)

「第一次技能」(聞く・話す)


「第二次技能」(読む・書く)

80

2) 直接法
 ▼ **オーラル・メソッド** (by言語学者 パーマー)


「聞く・話す」を習得するための **5 習性**

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤



81

2) 直接法
 ▼ **オーラル・メソッド** (言語学者 パーマー)



パーマー (1877-1949)

1922年イギリスから来日し14年間日本の英語教育に貢献
 日本の英語教育改革のためにオーラルメソッドを開発

(1894 - 1973)

オーラルメソッドを日本語教育に応用
 初の本格的な日本語教材『』を作成
 1948年「長沼スクール」開校

82

2) 直接法

▼ **GDM**, Graded Direct Method (byリチャーズ・ギブソン)

1940年

【ポイント】

- ・
- ・
- ・教材が**段階的(Graded)**に作られている (易⇒難)
- ・学習者の母語を使用しない(**Direct**)

83

83

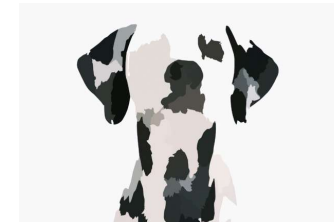
2) 直接法

▼ **GDM**, Graded Direct Method (byリチャーズ・ギブソン)

ゲシュタルト心理学

人は

「部分」の集まりと捉えているのではない



84

84

2) 直接法

▼ **GDM**, Graded Direct Method (byリチャーズ・ギブソン)

→

⇒ 「**ことば**」, Sentence(文)in Situation(場面)」

※「ことば」は単なる記号でそのものに意味はない

「場面」の中で「文」の一部として使われることで初めて意味を持つ

85

85

2) 直接法

▼ **GDM**, Graded Direct Method (byリチャーズ・ギブソン)

語彙制限がある＝

⇒

→ (byオグデン)の影響

※ 簡約日本語 by野元菊雄



86

86

3) **アーミーメソッド/ASTP**(Army Specialized Training Program)

第二次世界大戦 (1939-1945)

【背景】

アメリカ軍の**短期集中的**な外国語教育 (諜報活動のため)

【ポイント】

- ・
- ・

87

87

⇒複数の教師が同じクラス (学習者)を担当すること

アーミーメソッドにおけるチーム・ティーチング

- ・ ⇒音声や文法について英語で講義
- ・ ()
⇒口頭練習を徹底的に行う

88

88

4) **オーディオリンガル・メソッド (byフリーズ)**

1950-60年代

【ポイント】

①

(学習者に _____ を要求)

- ・
- ・
- ・

を使った発音練習



91

91

②

⇒多くの例文を挙げ、そこから文法等の規則を見出させる



⇒まず文法等の規則を提示
その後、例文を提示したり、練習させたりする

③

↓
言語の構造や体系を研究する学問

の影響

92

92

● **パターンプラクティス** (文型練習)

- ・ 練習 (リピート)
- ・ 練習 / (少しずつ文を長くする)
- ・ 練習 (文中の単語を置き換える)
- ・ 練習 (活用の練習)
- ・ 練習 (2つ以上の文を1文にする)
- ・ 練習 (未完成な文を完成させる)
- ・ 練習 (質問に答える)

93

93

(2つ以上の文を1文にする) の例

(文を提示) 「来週、京都へ 行きます。友達に 会います。」

教師 : 1つの文にします。じゃあ、Aさん。

学習者A: 来週、京都へ 友達に 会います。

97

97

(未完成な文を完成させる)

例) 文型「ています」の練習

教師: さとうさん、毎日、日本語、勉強します。

学習者: さとうさんは毎日、日本語を勉強しています。

(質問に答える)

例) 教師: Aさん、週末は何をしましたか。

学習者A: 何もませんでした。

98

98

オーディオリンガル・メソッドの機械的な口頭練習

● **ミム・メモ練習**

Mimicry and Memorization practice

● 発音練習で **ミニマル・ペア** (最小対立) を使用

⇒

例) aka aki /a/ /i/ ⇒ …意味の違いに関わる音の最小単位

※ ために、繰り返し練習する

99

99

4) オーディオリンガル・メソッド

行動(主義)心理学

…言語は習慣を形成することで習得できる

- ・ 外からの によって起こる を繰り返す行うことで、
習慣が形成される
- ・ 「反応」に対して が行われると習慣形成が促進される

100

100

「習慣形成理論」具体例

【動詞の転換練習(て形)】

- ① 教師「行きます、て形」と 指示
- ② 学生「行って」と 答える
- ③ 教師がほめる
⇒ 学生はやる気が出て「て形」が正しく使える回数が増える
- ④ 常に「て形」が正しく使えるようになる



101

101

4) オーディオリンガル・メソッド

構造(主義)言語学：言語の構造や体系を研究する学問

- ① の言語のデータを集め、
 を明らかにした
(音を音素に分解して分析するなど)
- ② 言語は である

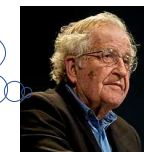
102

102

<オーディオリンガル・メソッドに対する批判>

- ・ が育たない
- ・ が求められるので、学習者にとって 負担
- ・ 言語を獲得するのに重要なのは、刺激ではない

チョムスキー(1928-)



Wikipedia より
105

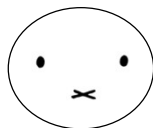
105

6) 人間主義的 (ヒューマンスティック) な教授法

▼サイレント・ウェイ (by心理学者 ガッターニョ)

【ポイント】

- ・
- ⇒教師は学習者が**自ら気づき学べるよう促す**
- ・
- ・ 学生同士、話し合いOK
- ⇒**グループダイナミクス(集団力学)**が働く



111

111

6) 人間主義的 (ヒューマンスティック) な教授法

▼CLL/コミュニティ・ランゲージ・ラーニング (by心理学者 カラン)

【ポイント】

- ・
- を取り入れた
- 教室= 教師= 学習者=
- ・



112

112

6) 人間主義的 (ヒューマンスティック) な教授法

▼CLL/コミュニティ・ランゲージ・ラーニング (by心理学者 カラン)

学習到達度 5段階

- ① : 教師に依存
- ② : 習ったことばを使う
- ③ : 自分から話し始める
- ④ : 一人で出来ると考える
- ⑤ : 自由にコミュニケーションができる



113

113

6) 人間主義的 (ヒューマンスティック) な教授法

▼TPR/全身反応法 (by心理学者 アッシャー)

【ポイント】

- ・
- ・ 幼児の第一言語の習得に基づく
- ・ の立場からも効果が期待された
- TPRでは両脳使用



114

114


6) 人間主義的 (ヒューマニスティック) な教授法
 ▼サジェストペディア (by精神科医 ロザノフ)

【ポイント】

(suggestion)で緊張や不安を取り除く

↓

- ・
- ・




115

115

6) 人間主義的 (ヒューマニスティック) な教授法
 ▼サジェストペディア (by精神科医 ロザノフ)

音楽を利用した授業とは



- ① : 教材の内容を紹介
- ② : 音楽に合わせて教師が朗読、
- ③ : ロールプレイなど練習

117

117

7) VT法/ベルボ・トナル法 (by言語学者 グベリナ)

1954-55年

【ポイント】

- ・ 体を動かしながら発音指導 =

⇒

- ・ (Verbo-tonal System) に基づく

119


119

8) SAPL (サプル), Self Access Pair Learning (byファーガソン)

1970年代

【ポイント】

- ・ の影響
- ・ ⇒
- ・ イントネーション重視
- ・ バロック音楽を使用



123

123

9) コミュニカティブ・アプローチ/CA/CLT

1970年代

【ポイント】

- ・ 対話的コミュニケーションを目的としたクラス活動
- ・ 従来の文法中心の考えから発展した教授法
- ・ 新しいシラバスを採用



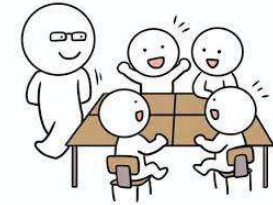
126

126

<クラス活動>

を使った活動

- ・
- ・
- ・
- ・ ディスカッション
- ・ ディベート
- ・
- ・



127

127

<クラス活動>

インフォメーション・ギャップ (情報の差) を使った活動

⇒

- ～流れ～ ※時間制限を設ける
- ペアになり、お互い質問し合う
- ⇒得た情報を書く
- ⇒発表



128

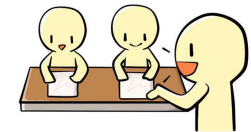
128

<クラス活動>

ロールプレイ :

()

- ～流れ～
- ペアになり、それぞれロールカードを読む
- ⇒話すことを考える
- ⇒時間制限を設けて練習
- ⇒発表



130

130

<クラス活動>

インタビュー・タスク :

～流れ～ ※時間制限を設ける

クラスメートに話しかけてお互い質問し合う

⇒得た情報を書く

⇒発表



131

131

<クラス活動>

● ディスカッション : あるテーマにつき、

教師は

● ディベート : あるテーマにつき、

を決め、

制限時間の中で

133

133

<クラス活動>

● : 実際に社会で起きている問題につき、話し合う

● PBL (Project-based Learning) :

・ 目的は、活動を通して、

134

134

<プロジェクト学習の進め方>

・ テーマの設定は学生自身が行うことが多い

・

徳島大学の例)「留学生のための生活ハンドブック」を作成

2026/3/12

135

135

9) コミュニカティブ・アプローチ/CA/CLT

実際のコミュニケーションに含まれる3つの要素
(クラス活動に必要な)

- ①
- ② :何をどう言うか自由に選べる
⇒自分で言うことを考える活動にする
- ③ :相手の反応を見て理解しているか確認したり、
自分の反応を変化させる

137

137

Principles of communicative methodology KEITH MORROW コミュニカティブ・アプローチの指導原則 (byモロウ)

1 Know what you are doing/teaching and why

クラス活動では「今、何をしているのか」を知っていなければならない

2 The whole is more than the sum of its parts

言語の部分だけではなく全体に目を向けなければならない

138

138

3 The processes are as important as the forms

伝達過程は言語形式と同様に重要である

4 To learn it, do it 言語を学ぶには経験が大切である

5 Mistakes are not always mistakes

学習者の「誤用」は必ずしも「誤り」ではない

139

139

コミュニカティブ・コンピテンス (byハイムズ)

⇒文法規則などの知識を
(コミュニケーション能力)



は、下記4つの能力を総合したものが
コミュニカティブ・コンピテンスだとした

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| ③ | ④ |

141

141

コミュニケーション・コンピテンス by カナルとスウェイン

- ① **文法能力**: 文法規則を正しく理解し、文法規則に基づいて文を作る能力
 - ② **談話能力**: 文脈や状況に応じて適切な文法形式や表現を用いて、会話を進める能力
 - ③ **社会言語能力**: 社会的状況や文化に合った適切な言語形式や表現を用いて、会話を進める能力
 - ④ **ストラテジー能力**: コミュニケーションが滞ったとき、会話を円滑に進めるための能力
- (文法能力、談話能力、社会言語能力、ストラテジー能力 など)

142

142

9) コミュニカティブ・アプローチ/CA/CLT

従来のシラバス

文法項目や文型で構成

新しい2つのシラバス

(文法項目や文型で構成されたシラバス)

(文法項目や文型で構成されたシラバス)

143

143

概念シラバス(ノーショナルシラバス)

⇒ 学習項目が、**概念**で構成されている

項目:

例) 「頻度」⇒いつも・よく・時々・たまに・一度も~ない

144

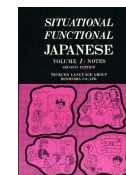
144

機能シラバス(ファンクショナルシラバス)

⇒ 学習項目が **機能** で構成されている

項目:

例: 「禁止」⇒~ないでください、~てはいけません など



145


145

9) コミュニカティブ・アプローチ/CA/CLT

【背景】 第二次大戦後、ヨーロッパは多様な民族が共存
⇒外国語能力を向上させるために、

by 欧州評議会の一員、言語学者 **ウィルキンズ**

- ・機能主義言語学者 **ハリデー**「言語機能理論」
⇒
- ・社会言語学者 **ハイムズ**「



146

146

	オーディオリンガル・メソッド	コミュニカティブ・アプローチ
目的		
シラバス		
練習方法		
長所		
短所		

147

147

10) タスク中心の教授法 1990年代 byマイケル・ロング


指導のポイント: まず、
それから、

タスク:

目標:

長所: 他の学生との

例) 会話力の向上を目的とするクラス
タスク「レストランの場面を見て、会話をする」



151

151

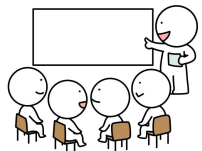
10) タスク中心の教授法 (TBLT) 1990年代 マイケル・ロング

コミュニケーション活動・意味重視

&

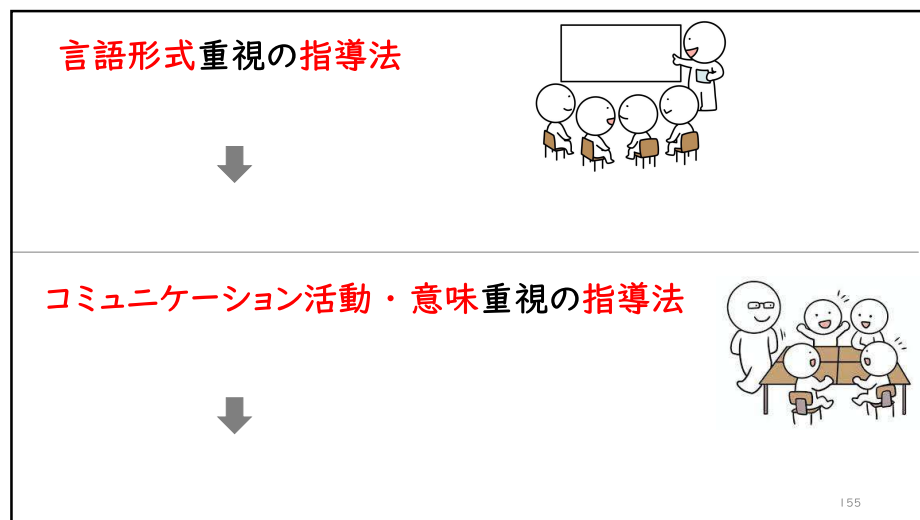
必要に応じて、学生の注意を言語形式に向けさせる指導法

↓



154

154



155

11) 内容重視の教授法／CBI, Content-based Instruction

1980年代 (アメリカで始まった)

- ・ある教科、トピックについて語学の教師が教える
- ・教科、トピックは、学生のニーズに合わせる
- ・ディスカッションやディベートなどを行う

156

156

内容重視の教授法に関連した教育プログラム

ESP、JSP

- ・
- ・

ESP, English for Special Purpose ⇒

EGP, English for General Purpose ⇒ 一般的な目的のための英語

JSP ⇒

JGP ⇒ 一般的な目的のための日本語

157

157

12) CLIL (クリル), 内容言語統合型学習

Content and Language Integrated Learning

1990年代

- ・教科の内容を目標言語を通して学び、
- ・ヨーロッパで始まり、現在もヨーロッパを中心に採用されている

159

159

1 2) CLIL (クリル), 内容言語統合型学習
Content and Language Integrated Learning

「4つのC」を組み合わせた授業

- ① 教科の (Content)
- ② (Communication)
- ③ (Cognition)
- ④ (Community or Culture)

160

160

1 2) CLIL (クリル), 内容言語統合型学習
Content and Language Integrated Learning

授業の流れ


- ① をテーマとした記事、ビデオを使用()
- ② ペアやグループで話す()
- ③ 発表・ディスカッション()

161

161

1 3) 「協働学習 / ピア・ラーニング (Peer Learning)」

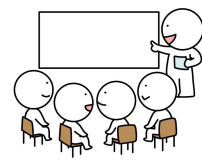
- ・一人での学習では得られなかった知識が身に付く
- ・コミュニケーション能力が向上




162

162

<学習観の変化>

従来: の学習 

↓

近年: の学習
 (教師は の役割) 

163

163

14) ナチュラル・アプローチ
 (by教師 テレル・言語学者クラッシュェン)

1980年代
 【ポイント】

幼児の母語習得の研究から

- ・ 言語を 目標とした
- ・ 聴解優先
- ・ 学習者が自発的に発話するまで、発話を強制しない

に基づいて開発

164

164

14) ナチュラル・アプローチ

クラッシュェンのモニターモデル
 (第二言語習得に関する5つの仮説)

①	仮説
②	仮説
③	仮説
④	仮説
⑤	仮説

165

165

クラッシュェンのモニターモデル(第二言語習得に関する5つの仮説)

①習得-学習仮説

クラッシュェンは

「習得」 ⇒

「学習」 ⇒

※

166

166

クラッシュェンのモニターモデル(第二言語習得に関する5つの仮説)

②自然(習得)順序仮説

・ その自然な順序は、

ロジャー・ブラウンの研究
 ⇒ 子供は類似した順序で第一言語(母語)を習得する
 (英語 現在進行形-ing ⇒ 複数形-s ⇒ 動詞の過去形…)

168

168

クラッシュェンのモニターモデル(第二言語習得に関する5つの仮説)

②自然(習得)順序仮説

<注意!>

クラッシュェンは、自然な順序の通りに教室で教えるべきだとは言っていない

170

170

クラッシュェンのモニターモデル(第二言語習得に関する5つの仮説)

③モニター仮説

⇒モニターが働きすぎると、スムーズな会話ができなくなる
(だから、「学習」は重要ではない)

171

171

クラッシュェンのモニターモデル(第二言語習得に関する5つの仮説)

④インプット仮説

第二言語は

ことで自然に習得できる



=学習者の



172

172

クラッシュェンのモニターモデル(第二言語習得に関する5つの仮説)

⑤情意フィルター仮説

が言語習得に影響する

情意フィルターが…高い=

低い=

インプット



情意
フィルター



習得



174

174